

重複障害のリハビリテーション

Rehabilitation for the multiple disabilities

重複障害とは「障害」を2つ以上併せ有することを意味しますが、厚生行政と教育行政では定義が異なります。厚生行政では、障害認定をもととした障害者福祉三法および障害者雇用法制度上に位置づけられ、一方、教育行政では、福祉三法とは異なる形で機能障害およびそれに伴う能力障害により障害を定義しています。近年では、内部障害を中心に複数の臓器障害を重複障害として捉える向きもあります。本号では、重複障害者が法制度上どのように位置づけられているのか、重複障害を取り巻く現場の課題について整理し、どのような支援や配慮が必要かを考える特集を企画しました。

1. 重複障害とは何か？ 865

西嶋一智 氏

重複障害とは一般に複数の障害を併せもつ状態のことをいう。どの障害を対象に重複を数えるか、その範囲には統一された明確な定義はなく、行政においても領域によって異なっている。本稿では障害者手帳交付、障害年金、障害者雇用、教育行政の各領域における障害の捉え方の差異について、歴史的経緯、現状や課題を含めて概説している。法制度面は硬直化している部分があるが、現状に合わせた柔軟な対応が望まれる。

2. 重複障害のある児童生徒の教育 871

小澤至賢 氏

重複障害教育の歴史的概要、教育の枠組み、ならびに具体的な指導内容が紹介されている。医療の進歩などにより、医療的ケアの必要な幼児児童生徒が増加し、養護学校在籍者の重度・重複化が進んでいる。重複障害のある児童生徒の教育の実践において重要なポイントとして、彼らの安心につながる工夫、彼らの気持ちの読み取りとかわわり、彼らにとってわかりやすい状況づくりなど、具体例を挙げて述べられている。

3. 身体障害と精神障害の重複障害への対応 879

菊地尚久 氏

近年の救命救急医療の進歩により、交通外傷など高エネルギー損傷により脳と脊髄の両方が損傷される重度重複障害例の救命が可能となり、リハビリテーション治療を必要とする例が増えている。本稿では、脊髄損傷（対麻痺、四肢麻痺）と外傷性脳損傷（高次脳機能障害）の重度重複障害に対する回復期・生活期リハビリテーションについて述べられている。在宅復帰のみならず、社会復帰をめざした社会リハビリテーション実践（障害福祉サービスである自立訓練など）についても紹介がある。

4. 肢体不自由の重複障害への対応 887

鈴木真千子 氏ら

脳卒中後片麻痺と運動器疾患の合併例を中心に、肢体不自由の重複障害に対するリハビリテーション治療について症例を交えて解説している。肢体不自由の重複障害例（脳卒中と変形性膝関節症合併例など）では、どちらの障害が先行しているかによって対応が異なる部分がある。また、脳神経疾患および運動器疾患はおののが転倒のリスク因子であり、これらが重複することで転倒リスクがさらに高まることに注意が必要である。

5. 内部障害の重複障害への対応 895

伊藤 修 氏

内部障害のなかでの重複化、特に心機能障害、呼吸機能障害、腎臓機能障害を重複した患者数の増加が目立っており、これには高齢化や動脈硬化性疾患の増加が関与している。重複障害のリハビリテーション診療では、障害を来す単独疾患の病態生理だけでなく、脳・心・肺・骨関節などの臓器連関も考慮しながら進めてゆく。また、目標の負荷量に到達するまでには時間がかかり、合併症を起こしやすいため、より低強度の運動から開始するなどの注意深い負荷量の調整も必要である。